

## 第2回 原子力規格委員会 議事録

1. 日時 平成13年6月5日(火) 13:30~15:00

2. 場所 日本電気協会 4階A, B会議室

3. 出席者(敬称略,五十音順)

出席委員:近藤委員長(東京大学),友野副委員長(東京電力),班目幹事(東京大学) 饗場(三菱重工業),阿部(日本原子力研究所),五百旗頭(中部電力),井上(富士電機),上杉(発電設備技術検査協会),大西(日本原子力保険プール),尾本(東京電力),小山田(日立製作所),五明(火力原子力発電技術協会),清水(鹿島建設),鈴木(日本製鋼所),中村(関西電力),野本(日本原子力発電),平野(原子力発電技術機構),前田(核燃料サイクル開発機構),宮野(東芝),吉田(日本電気協会)(20名)

欠席委員:小林(東京工業大学),原(東京理科大学)(2名)

フェロー:安藤(東京大学名誉教授),飯田(東京大学名誉教授),村主(原子力システム研究懇話会)

オブザーバ(従来体制の分科会長):大久保(上智大学)

オブザーバ(説明者):矢作(基本方針策定タスク委員,東京電力)

事務局:浅井・堀江・小宮・猪木・岩井(日本電気協会)

4. 配付資料

資料No.2-1 第1回 原子力規格委員会議事録(案)

資料No.2-2 原子力規格委員会 委員名簿(案)

資料No.2-3 分科会及びタスクグループ規約案並びに分科会設置提案の書面投票結果

資料No.2-4 原子力規格委員会 分科会委員名簿(案)

資料No.2-5-1 原子力規格委員会 基本方針策定タスク名簿

資料No.2-5-2 原子力規格委員会 規格策定基本方針(案)

5. 議事

(1) 会議開催定足数確認

事務局から,委員総数22名に対し本日の委員出席者数20名で,会議開催条件の「委員総数の2/3の出席」を満たしていることの報告があった。

(2) 前回議事録確認

資料No.2-1の前回議事録については,事前配布しコメント反映済みのため,読み上

げは省略し承認された。

( 3 ) 原子力規格委員会委員追加の提案

資料No.2-2に基づき吉田委員から、原子力規格委員会に以下の委員を追加する提案があり、挙手による決議の結果、賛成20名、反対0名で承認された。

- ・仲嶺信英（内閣府原子力安全委員会事務局審査指針課）
- ・本部和彦（経済省原子力安全・保安院原子力発電安全審査課）

( 4 ) 書面審議結果報告

資料No.2-3に基づき事務局から、以下の書面審議について承認されたことの報告があった。

- ・分科会設置提案について（投票番号：原子力規格委員会No.1-1）
- ・分科会及びタスクグループ規約案について（投票番号：原子力規格委員会No.1-2）

( 5 ) 分科会委員追加の提案，及び退任の報告

資料No.2-4に基づき吉田委員から、各分科会に対する委員追加の提案，及び委員退任の報告があった。委員追加の提案に対し、挙手による決議の結果、賛成20名、反対0名で承認された。

( 6 ) 原子力規格委員会 規格策定基本方針案の議論

資料No.2-5-1に基づき、近藤委員長から、「規格制定に関する基本方針」を策定するためのタスクグループである「基本方針策定タスク」の委員について報告があった。引き続きこの基本方針策定タスクで検討中の規格策定基本方針案について、班目幹事（基本方針策定タスク主査）から前置きの発言があった後、資料No.2-5-2に基づき矢作氏（基本方針策定タスク主査）より、作成途中の「案」について説明があった。

本日は、「全体的な方向性について了解を得る」とともに、個別の内容に対するコメントをいただくという方針で議論を行った。

議論の結果、規格策定基本方針案に関し、全体的な方向性については資料の内容で了解を得たが、引き続き基本方針策定タスクにおいて、以下の意見を踏まえて検討を行うことになった。（なお資料に対する追加コメントがある場合、2週間以内を目途に事務局へ送付することになった。）

- ・本案には、一般的内容と個別の内容が混在しているので、これらを分離できるかどうかも含めて整理し直すようタスクで検討する。
- ・外国語表記、及び完全に日本語になっているとは考えられない外国語のカタカナ表記は、共通の理解を得るために使用を避けるべきであるので、適切な日本語の表現に訂正すること。
- ・「公正性、公平性、透明性、公開性」という用語の定義を明確にする必要がある。
- ・「1.活動目的」記載の「原子力施設」について、対象範囲が明確になるよう適切な表現を検討すること。

- ・「５．４．１安全設計分野」及び「５．４．２構造分野」の「（３）学会との調整」については、本原子力規格委員会を主体とした表現に修正すること。
- ・「運転員の資格」のようなソフトウェアに関わる規格の整備の必要性が明確になるよう「５．４．７運転・保守分野」の表現を修正すること。
- ・国内の他の規格策定機関との協力については「６．国内他機関との協力」に具体的に書かれている。国外についても「４．５規格の国際性」を具体的にどう展開するか記載する方が良い。
- ・新規格作成に当たっては、各規格策定機関の独自の判断により競合して規格を策定していくやり方もあるが、各規格策定機関の調整会議を設け、「各規格策定機関の役割分担」を明確にしていくことが望ましい。
- ・ＩＡＥＡでは安全基準作成の「ステージ３」として、「ステージ２」で作成した多くの基準の体系化を２００３年完了を目指して進めている。我が国の規格と大きく異なる点は「ステージ２」でチェルノブイリ事故を反映した規格としていることであり、今回の規格作成、見直しにおいても、特にシビアアクシデントについてどう整備すべきか検討してほしい。またＩＡＥＡは、核燃料サイクル施設についてもこれから２～３年かけて基準を整備する予定であるので、我が国でもそれに積極的に参画するとともに、核燃料サイクル施設に対する規格作成を検討してほしい。

（７）その他

次回委員会開催日時は９月１７日，１８日，２６日午後を候補として，本日欠席の委員の都合を確認の上，決定することになった。

[ 会議後，調整した結果，９月１７日午後開催することとした。 ]

以 上